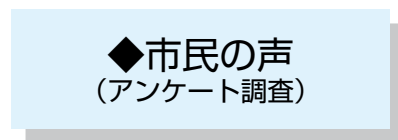
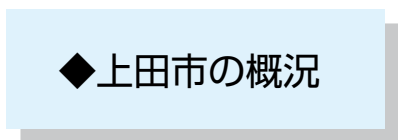
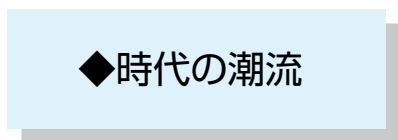
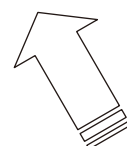
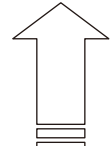
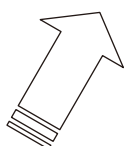
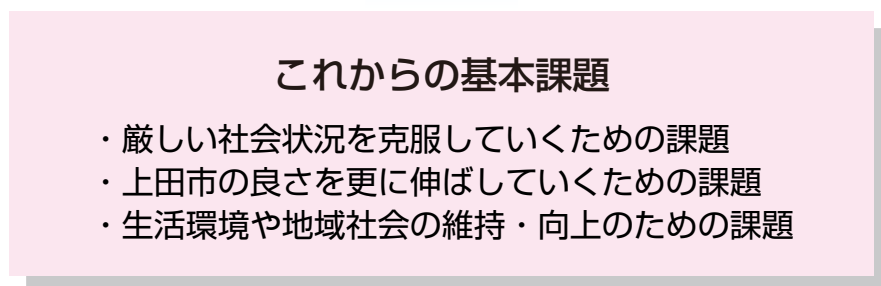
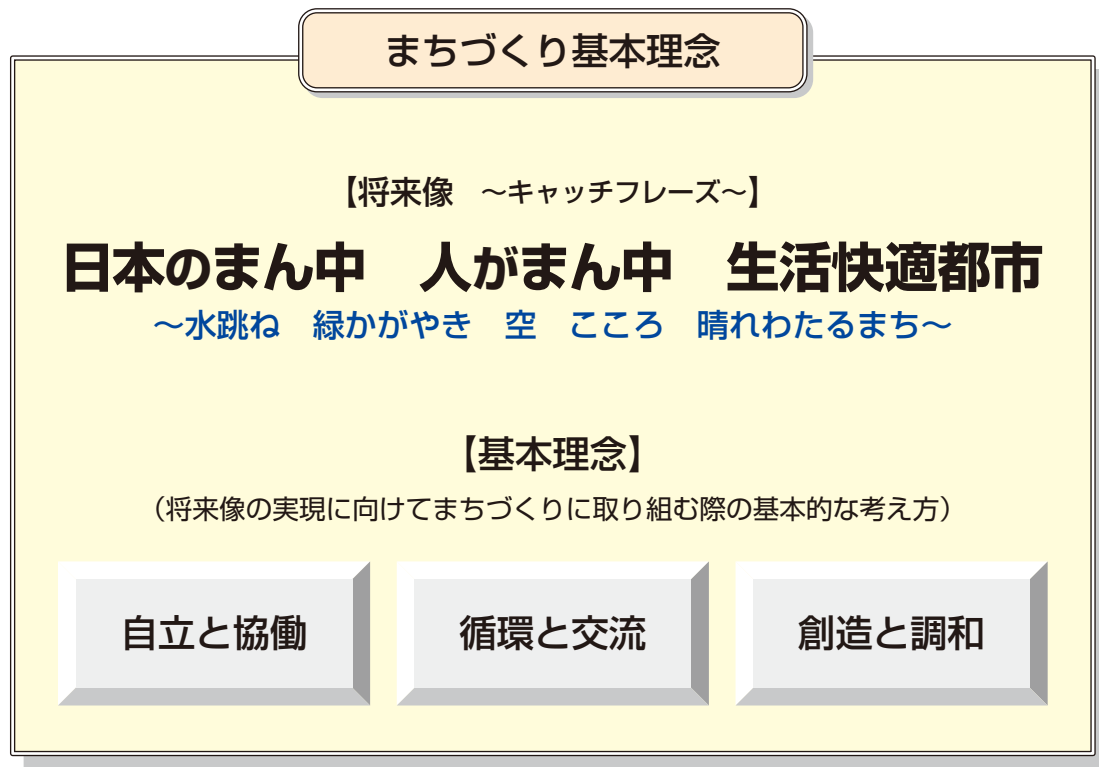


I. 基本構想

基本構想

■基本構想の概要



まちの将来イメージ

(おおむね10年後の上田市のあるべき姿)

- 社会環境の変化に強い、自立するまち
- 豊かな自然にはぐくまれ、人々が行き交うまち
- 上田市に住む誇りと満足感が得られるまち

まちづくりの大綱

(将来像を実現していくために必要な施策の方向)

コミュニティ
自治

産業・経済

自然・文化

生活環境

健康・福祉

教育

土地利用構想

基本計画

1 まちづくり基本理念

(1) 将来像 ～キャッチフレーズ～

おおむね 10 年後の上田市の将来像をキャッチフレーズ（短い文章で表現したもの）として次のように掲げます。

日本のまん中^{なか} 人がまん中^{なか} 生活快適都市
～水跳ね^は 緑かがやき 空 ところ 晴れわたるまち～

●将来像に込めた思い

「日本のまん中^{なか}」

長野県東部の中心都市として、国内外、地域の内外に発信し続けることを表現しています。

上田市郊外に鎮座する生島足島神社は、古くから「日本中央」と称されてきたほか、真田一族、自由大学、農民美術、蚕糸業、そして現在の先端技術産業や特産品、観光名所など、上田市が、さまざまな分野で国内外へ大きな影響を与え続けてきたことも表現しています。

「人がまん中^{なか}」

「市民が主人公である」ということであり、この地域で言う「ずく」（ものごとくに立ち向かう気力や勇気などを表す方言）を出して、自らの地域を自らで良くしていこうという自立の精神を基調とした、上田市が根幹と考えるべき住民自治の在り方を表現しています。

「生活快適都市」

住む人、訪れる人が豊かで快適な時間を過ごすことができる空間を表しているものですが、それを支える経済的な豊かさや文化的な背景、そして安全・安心に過ごせるさまざまな生活基盤が整っていないと成り立たない概念でもあり、そういった幅広い意味を込めて表現したものです。

「水跳ね^は 緑かがやき 空 ところ 晴れわたるまち」

緑豊かな森林など恵まれた自然環境を引き継ぎ、将来にわたって、すべての人が青空のような澄みきった心で時を過ごせるまちであることを願い、表現したものです。

(2) 基本理念

将来像の実現に向けてまちづくりに取り組む際の基本的な考え方を「基本理念」とし、自立と協働、循環と交流、創造と調和をキーワードとして掲げます。

ア 自立と協働

～まちづくりを行う際に、どういう考えかたに基づいて行動すべきか、ということを表しています～

- ◆わたしたちが自ら考え行動し、地域の個性が光り輝く「自立」するまちをつくれます。
- ◆みんなで知恵を出し合い汗をかき、行動する市民・団体・企業・行政など多様な主体が「協働」するまちをつくれます。

○たとえば

住民自治の視点では…

上田市のまちづくりにおいては、公共サービスの受益と負担を考え、自らの責任と判断において住民自治を実践することにより、それぞれの個性を響かせ合いながら、市民が主人公であるという考えを基本とします。

また、地域課題に対しては、市民・団体・企業・行政など多様な主体が協働して取り組みます。

地域経済の視点では…

さまざまな地域資源を生かしながら、自立した地域経済を目指します。また、産業間や業種間での連携によって、地域経済の活性化を目指します。

行政経営の視点では…

自己決定・自己責任という地方分権の原則を遵守できるよう、引き続き財政の健全性を保持するとともに、行政が担うべき役割を見直します。また、行政の仕組を「経営」という視点から見直した「行政経営」を目指します。

更に、住民・団体・企業・行政の協働による地域経営を実現するため、さまざまなニーズに機敏に対応できる生活者起点の行政を目指します。

イ 循環と交流

～まちづくりを推し進め、発展させるためにはどういう手段をとればいいのか、ということを表しています。～

- ◆上田市のさまざまな地域資源を活用・共有し、「循環」させながら活力をはぐくみ、まちを発展させていきます。
- ◆上田の魅力を国内外へ力強く放ち、心触れ合う「交流」を深めながら、まちを発展させていきます。

○たとえば

市民活動の視点では…

地域の個性や文化を再発見し、上田市全体の魅力や価値などを認め合い、さまざまな地域資源を活用・共有しながら、地域内で循環させることで、地域間相互の発展を目指します。

また、地域の魅力を国内外へ力強く発信し、地域外の住民や外国籍の住民などとも心が通じ合う交流を深めて、更なる発展を目指します。

地域経済の視点では…

地域内における同業・異業種間の交流や、地域内需要の拡大及び地産地消の取組などを積極的に推進し、経済を活性化させていきます。

また、上田市のブランド力を高め、県内他地域や、国内外に対して発信することで更なる発展を目指します。

地域経営の視点では…

地域経営の主体となりうる住民・団体・企業・行政のネットワーク化を図り、連携を深めながら地域経営を実践していくことで、上田市の発展を目指します。

また、隣接市町村や姉妹都市などとの交流を深め、地域経営に反映させ、上田市の更なる発展を目指します。

ウ 創造と調和

～まちづくりを行った結果のあるべき姿はどういうものか、ということを表しています～

- ◆みんなが元気で、安全・安心・快適に暮らせる持続可能な社会を「創造」し、新たな世代へ引き継ぎます。
- ◆個人や地域の多様性を認め合い、自然環境や地域文化との「調和」を大切にし、新たな世代へ引き継ぎます。

○たとえば

生活環境の視点では…

市民が互いを認め合い、生きがいや豊かさを感じながら、快適に暮らすことのできる持続可能な社会を創造し、未来へ引き継ぎます。

また、貴重な自然や個性ある地域文化との調和を図り、環境にやさしい生活を目指します。

地域産業の視点では…

地域の産業資源を有効に活用しながら、新たな技術による産業の高度化と、産業創出を進め、農業、商業も併せて、地域産業の総合的な発展を目指します。

また、持続可能な社会を形成するため、貴重な自然や個性ある地域文化と調和できる地域産業を目指します。

地域経営の視点では…

少子高齢化の進行や人口減少など厳しい状況に適応し、市民・団体・企業・行政の総力でまちづくりに取り組めるような、新たな地域経営方式の創造を目指します。

また、貴重な自然や個性ある地域文化に調和することのできる地域経営方式を目指します。

2 まちの将来イメージ

基本理念に基づきまちづくりを進め、おおむね10年後、次のようなイメージのまちになることを目指します。

(1) 社会環境の変化に強い、自立するまち

地域の産業を盛り上げながら、協働で新しい上田の地域社会を営みます。

- 厳しい経済・財政事情にあっても、地域間競争に負けない発展するまちとして、産業の足腰を強くするとともに、行財政の効率化を更に進め、自立性を確立しています。
- 市民・地域と行政がお互いの役割を果たしながら、一つになって協働のまちづくりを進めるための新しい地域経営の方式が各地域で根付いており、住民が主体的に地域の将来を語り合い、問題解決に取り組んでいます。
- 地域住民の主体的な活動が以前にも増して盛んになり、幅広い視野とさまざまな能力を持った人たちの力が地域づくりに生かされています。また、高齢者もその経験と能力が生かされて、協働の核となり、元気に活動しています。
- 社会情勢の変化に強く、市民の視点から本当に必要な事業が選択されて、必要なサービスが提供されています。

(2) 豊かな自然にはぐくまれ、人々が行き交うまち

多様な地域資源を大切にし、その個性を伸ばしながら交流の輪を広げます。

- 菅平と美ヶ原の二つの高原や森林、里山、河川からなる人々にさまざまな恵みを与えてきた豊かな自然と環境の保全に重きを置き、子どもたちの世代へ豊かな自然を引き継ぐための努力を重ねています。
- 真田一族や蚕糸産業の隆盛など誇りある歴史や、花や高原野菜などの農産物、そして温泉やスキー場といった地域資源が数多くあり、皆がその大切さを認識しながら地域の個性として磨き続けています。また、産学官に地域住民を交えた連携体制が整えられ、地域資源を新たな産業振興に結びつけるための研究や取組が行われています。
- 市の基幹的産業である工業は、持続的発展を遂げており、独創的な発想や技能によって“ものづくり”の技術が生み出され、新たな産業分野も拓かれています。

(3) 上田市に住む誇りと満足感が得られるまち

過去から未来に脈打つ文化を大事にし、新たな価値を生み出しながら、まちにかかわる人の環を広げます。

- 上田市のもつ地域資源が保全され、その魅力が高まる中で、雄大な自然との触れ合いや、歴史との語らいを楽しむ人々が市の内外から集います。また、さまざまな地域資源の循環が生まれ、地域の内から外までの多様な交流が深まり、魅力と活力のあるまちになっています。
- 中心市街地では、商業集積や交流拠点の整備など各種都市機能が充実し、広域から人々が集います。また商店街では、まちの魅力を高めるためのさまざまな活動が展開され、各商店街の個性が光るにぎわいの拠点づくりが行われています。
- 観光分野では、「上田らしさ」や「上田ブランド」を創出する観光戦略をもとに、上田市のファンを増やすための取組が全市一体となって進み、リーディング産業として他の地域産業にも波及効果をもたらしています。
- たけのぼり岳の幟、三頭獅子、戸沢のわら馬引き、御柱祭などの伝統行事や山本鼎らによる農民美術などの先人から継承された独自の文化や伝統を再確認する取組が行われ、これを守り、大切にしていくなかで機運が高まっています。
- 地域のコミュニティを大切にしながら、人の心が伝わるような雰囲気をつくられています。さまざまな人々の絆と環を大切に、他の地域へも広がりをもったまちに発展しています。
- 広範な市民が集える交流・文化拠点が整備されており、上田市のシンボルとなって、新たな地域文化の創造や都市間交流の舞台として活用されています。
- 地域の環境は、下水道の普及やごみの減量化などが進んでいます。また、公共交通のシステムが工夫され、安心して医療サービスを受けられる体制が築かれるなど、子どもからお年寄りまで、住む人がみな安心感と満足感を伴った居心地の良い社会環境の中で暮らしています。更に、健康と生きがいづくりに向けた活動が地域ごとに取り組み、みんながいきいきと暮らしています。
- 地域の子どもたちに対しては、家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの生きる力をはぐくむ取組が広がっています。また、市内の大学などとの連携により、子どもから大人まで、個人の能力を地域のために生かせる人材や人間性豊かな人材の育成が行われています。

3 計画フレーム（将来人口）

わが国の人口は、平成 16 年をピークに減少に転じ、平成 18 年 12 月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」によれば、平成 17 年の日本の総人口 1 億 2,777 万人は、平成 27 年に 1 億 2,543 万人（出生率が標準的な中位推計による）、平成 37 年には 1 億 1,927 万人、平成 58 年には 9,938 万人となる見込みです。

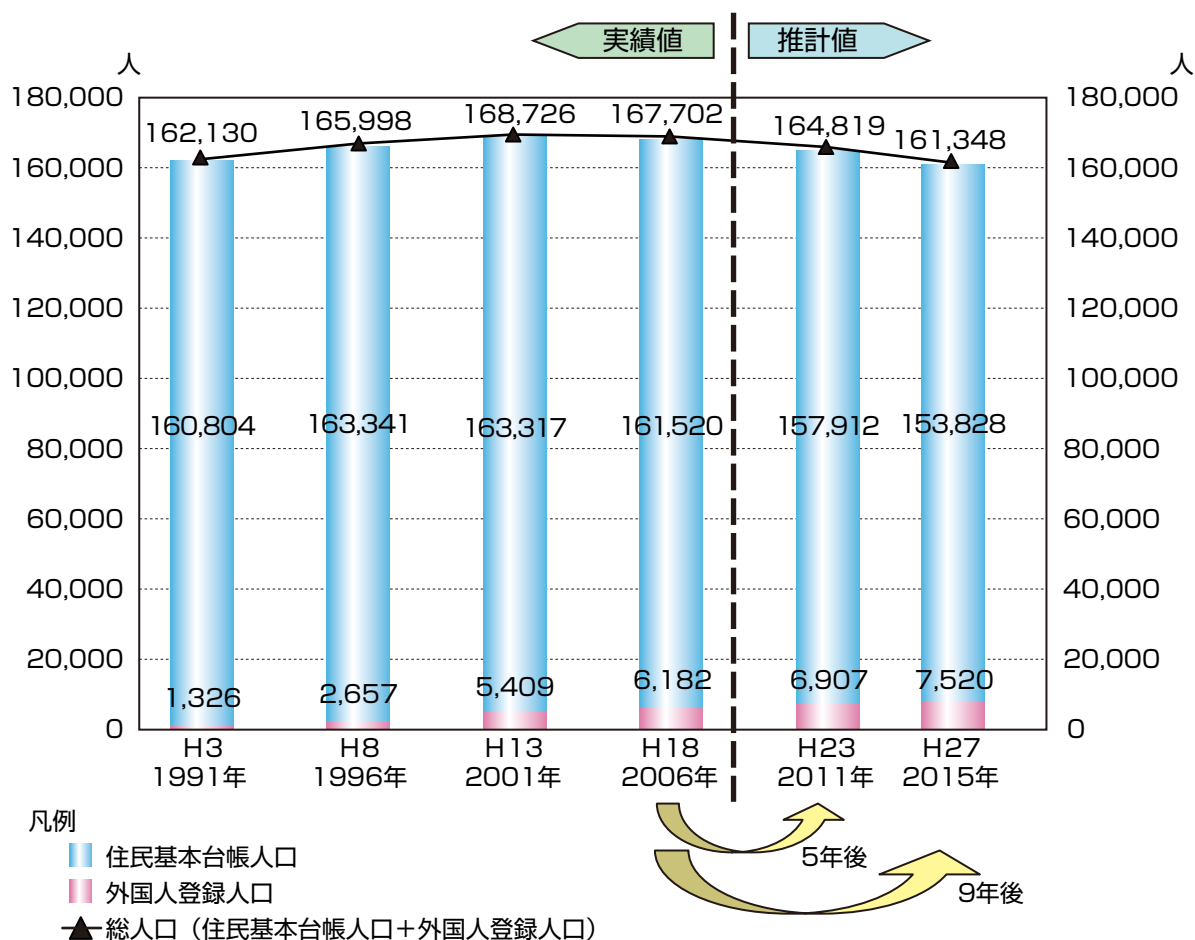
このように国全体の人口が減少に転じたのと同様の時を同じくして上田市の人口も減少局面に入っています。

本計画の目標年次である平成 27 年（2015 年）の上田市の将来人口は、おおむね 16 万 1,000 人（住民基本台帳人口と外国人登録人口を用いた人口推計による）と想定します。しかし、上田市の将来

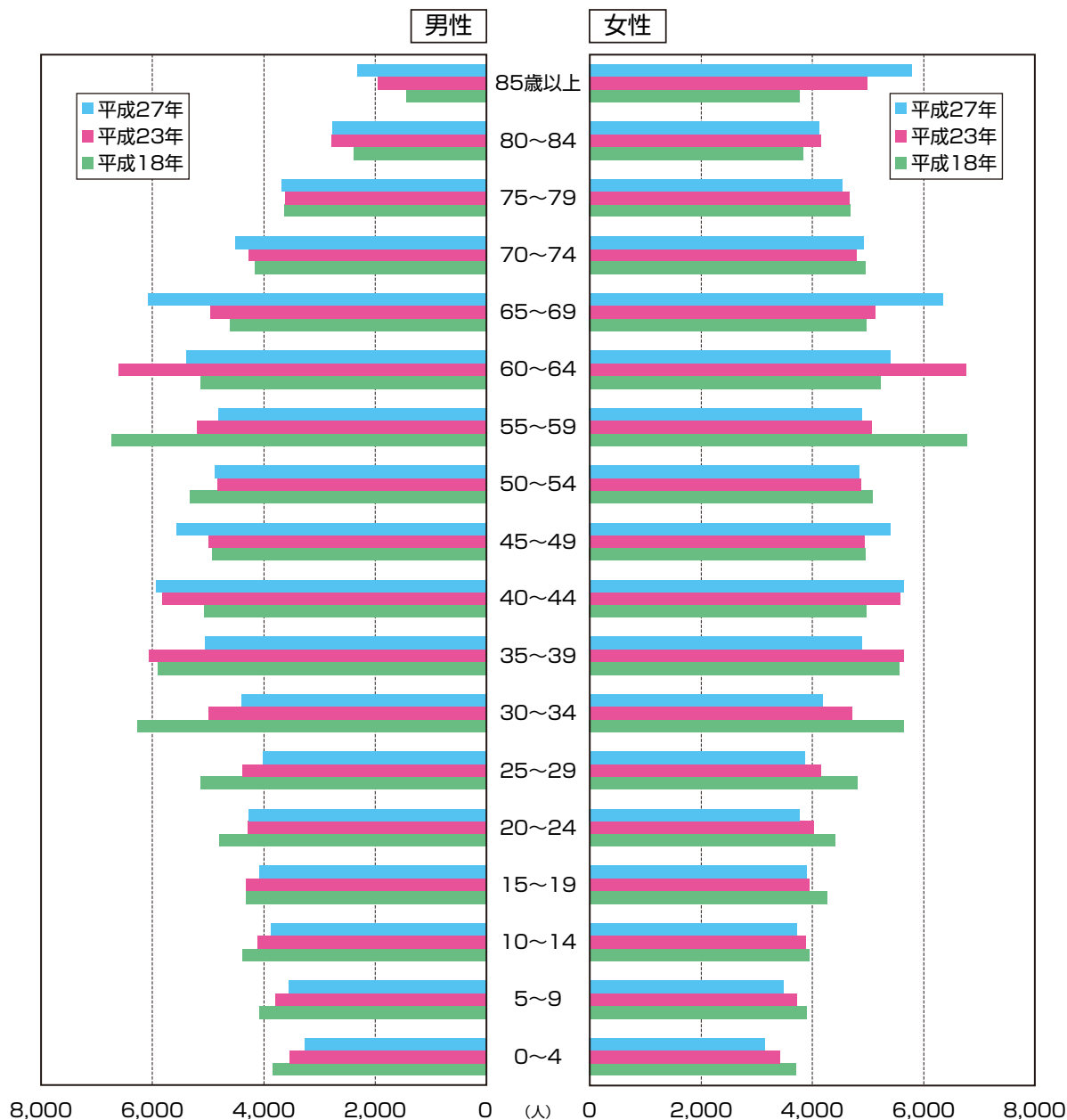
像実現に向けて、活力に満ちたまちづくりを進めるためには、人口の減少を最小限に食い止める必要があります。今後、本計画に基づき、子育て環境や生活環境の整備、教育文化の充実や産業振興などへの積極的な取組を展開することによって、推計値を上回る定住人口の確保を目指します。

また、年齢別人口では、平成 27 年の 30 歳～34 歳、55 歳～59 歳の人口は大きく減少し、65 歳～69 歳の人口が大きく増え、全体として年少人口の減少と高齢人口の増加が続く見込みです。総人口を重視するだけでなく、人口構造の変化に対応しながら、市民生活の質を重視するまちづくりにも取り組む必要があります。

I 人口の推移



II 年齢別人口の推移



(注) ・推計の算出方法は、世代別に人口の変化を捉えることができる「コーホート法」を採用しました。本推計では、平成13年と18年の2時点の間における各世代(5歳区分)の人口の変化をもとに、将来人口を推計しています。
 ・人口データについては、直近のデータ(H18年10月)が利用できる住民基本台帳値をもとに推計しました。ただし、住民基本台帳値には外国人人口が含まれていないため、外国人登録者数を加えて推計しています。
 ・人口データの基準日は、基本的に各年10月1日としましたが、外国人登録人口で基準日現在のデータがそろわない平成3年については、直近の月のデータを採用しています。
 ・人口推計に当たって加味した出生率については、都道府県人口推計(平成14年 国立社会保障・人口問題研究所)において示されている都道府県別の出生率をもとに、平成13年~18年の住民基本台帳実績値から県出生率を補正し、その補正值を用いて各年の出生数を算出しました。(H13~H27の出生率推移=1.40→1.37→1.38)

4 土地利用構想

市土は、現在及び将来における市民のための限られた資源であるとともに、経済活動をはじめとする市民活動に必要な共通基盤であり、市民生活及び地域の発展と深いかわりを持つ貴重な資源です。

「まちづくり基本理念」にのっとり、「まちづくりの大綱」に基づく各種施策を進め、「まちの将来イメージ」を具現化するためには、市民の理解と協力の下に、長期的な視野に立ち総合的かつ計画的な土地利用を図っていくことが必要です。

「少子高齢社会」の到来、「地方分権時代」への対応、「自然環境の保全」意識の高まり等、さまざまな社会環境の変化の中で新生上田市が船出をしました。今後、市民・地域と行政が協働により、将来をしっかりと見据えたまちづくりを進めていくため、以下の基本方針に基づき調和のとれた土地利用を目指します。

市土利用の基本方針

(1) 計画的な土地利用の推進

市土の利用に当たっては「生活者起点」、「地域経営」の視点に立ち、市民の理解と協働により公共の福祉を優先し、持続的かつ均衡ある発展を図っていく必要があります。

また、本市には恵まれた自然環境、美しい風景とともに、古くから培われてきた貴重な歴史・文化的遺産が点在しており、地域に対する「誇り」や「愛着」にもつながっています。

そこで、今後の土地利用の推進に当たっては、それぞれの地域が持つ個性や資源を尊重し、自然環境の保全、魅力ある地域景観の形成等に配慮した上で、都市・農村・森林の各地域における区分を明確にした秩序ある土地利用を、長期的な展望のもとに別に定める「国土利用計画 第一次上田市計画」に基づき、総合的かつ計画的に進めていきます。

(2) 自然と共生したまちづくり

上信越高原国立公園、八ヶ岳中信高原国立公園という二つの自然公園をはじめとした本市の持つ豊かで多彩な自然環境は市民の誇りであり、市民が豊かで潤いのある生活を営む上でも必要不可欠なものです。併せてこれら自然の雄大な広がりや、市域の枠を超え広域的な視点からも、守り・はぐくんでいく必要があります。

また、森林・河川等の自然は、私たちにさまざまな恵みをもたらしてくれる一方で、自然災害等の厳しい一面を見せます。特に近年の経済発展と並行して、自然生態系の変化や異常気象による自然災害等が、世界的規模で顕著化しています。

このような中で、市民の財産である自然環境を大切にしながら災害に対して十分に備えるとともに、将来にわたり自然からの恵みを享受できるように、自然と共生したまちづくりを進めるものとし

(3) 集約型都市構造への誘導と 個性あふれる地域づくりの推進

近年における経済の発展やモータリゼーションの進展、また、核家族化の進行やライフスタイルの変化、更には農業構造の変化等さまざまな要因により、都市地域においては未利用地が目立ち、農村地域においては土地利用形態の混在化や過疎化が生じています。

少子高齢時代を迎えこのような拡散型都市構造の進行は、市民生活上、環境保全上、あるいは行政サービス提供の非効率化・コスト増大を招くなどの問題点が指摘されています。

このような点を踏まえ上田市の土地利用の基本方向は、既存ストックの有効活用をベースに、集約型都市構造への誘導を図るとともに、各地域の特色を生かした個性豊かな地域づくりを目指すものとします。

このため、都市地域においては、土地の有効活用を促し活性化させることにより市街地の再構築を図り、行政・交通・商業・業務・居住等のさまざまな機能が集積された、利便性が高く快適な都市空間を創出していきます。

また、農村地域においては、土地利用の調和に配慮し無秩序な開発を抑制するとともに、豊かな自然環境や歴史的資産などの地域の個性を彩る多様な資源を守り生かしながら、生活環境の維持・向上や人口流出防止に努めていきます。



塩田地域の田園風景

5 まちづくりの大綱

将来像を実現していくために必要な施策の方向（大綱）を次のように定めました。

(1) コミュニティ・自治

～認め合い 自ら動き 個性きわだつ～

地方分権一括法の施行により地方自治体の役割が変化し、今までに比べて権限と責任が強化されていきます。この新しい時代を突き進むためには、知恵を出し、汗をかきながら、満足感・達成感の得られるコミュニティ活動を展開する必要があります。

都市部から農村部まで、コミュニティ活動を充実させ、さまざまな能力を持った市民の地域への主体的なかかわりを求めています。また、分権型自治にふさわしい新しい地域経営方式を構築するとともに、市民同士や市民・行政間の垣根を作らず、互いに連携できる体制を整備しながら、一体となった取組を進めます。

ア コミュニティ活性化のために

幅広い視野とさまざまな能力を持った地域住民の主体的な活動を地域づくりに生かすため、自治会などのコミュニティやNPOの活動を支援し、活性化を図りながら、連携や交流のためのネットワークづくりを進めます。また、それぞれの歴史・風土等による地域特性を生かしながら進めている住民主導の自治活動を発展させ、市民協働の地域づくりを進めることで、地域が元気なまちづくりを推進します。

これからは、国籍や民族、文化の違う人々が、互いに認め合い、尊重しあって暮らすことのできる多文化共生のまちづくりを進めていく必要があります。外国籍市民が地域社会へ溶け込むための支援や仕組づくりなどに取り組みます。

また、他国の文化への理解を深めるため、友好都市・姉妹都市を含む諸外国との交流を促進します。国内の姉妹都市との交流については、多様な市民の連携・交流を通じた地域の活性化や上田市民としての一体感の醸成につなげていきます。

イ 分権自治を確立するために

地域住民がまちづくりを考え、行政に提言したり意見を述べる組織として、平成18年、地域協議会が市内9地域でスタートしました。これを踏まえ、コミュニティ活動団体のネットワークを強化するなど、自らの権限と責任のもとで自治を行う地域内分権の新たな展開に取り組みます。

これからは、従来の「行政運営」から、政策目標を明確化し具体化するための手段が確保される「行政経営」への転換を図ります。そのために、市民満足度の向上を目的として、顧客志向や成果重視への意識改革を進めます。また、合併のスケールメリットを生かした効率的な行政経営を行い、健全な財政運営を保ちながら、次世代の負担にも十分配慮した施策・事業の推進を目指す必要があります。

更に、広域的課題に対しては、上田地域広域連合や同連合の構成市町村とも連携・協調し、隣接都市や、より広範な地域をも視野に入れた交流・連携を進めていきます。

新たな住民自治の姿や市民と行政の協働の在り方など、自治の理念・仕組みについてのルール化が必要になっています。そのための自治体の憲法とも言える「(仮称)自治基本条例」を制定することで、新生上田市の分権自治を形作っていきます。

(2) 産業・経済

～知恵集め 技術磨き 未来ひらく～

上田市では、大学等研究機関と企業の共同研究開発を推進する産学官連携支援施設（AREC^{エーレック}）や地域企業を結ぶネットワーク「AREC プラザ^{エーレック}」をはじめとする産学官連携の基盤が整っています。

また、農畜産物、商業集積、別所温泉をはじめとした温泉地や文化財、景勝地などさまざまな地域資源があり、このような地域資源を有効に活用していく必要があります。

工業、農業、商業、観光の四つの柱を軸に、産学官に加え、地域住民を交えた連携体制を整えながら、地域間競争にも対抗できる新しい産業への転換を図り、未来に向けて持続的な発展を目指します。

ア 地域経済を活性化するために

地域農業の振興を図るためには、身近な消費者である住民一人ひとりが改めて農業の重要性を理解することが大切です。生産活動を促進する環境や安定的な生産体制を整備するとともに、“地産地消”を推進しながら、農業の振興を図っていきます。

また、別所温泉や丸子温泉郷などの名湯、スポーツリゾートとして有名な菅平高原、大都市と農村との交流の舞台となった武石地域など既存の観光資源を充実させながら上田市の優位性を高め、四季を通じた誘客や滞在型観光を推進します。更に、フィルムコミッション活動やグリーンツーリズムによる都市と農村の交流活動、農業と観光の連携など、新たなにぎわいを創出することで、にぎわいと交流のまちづくりを進めます。

コンパクトなまちづくりにより、中心市街地の商業集積や交流拠点づくりなど各種都市機能の充実を図り、併せて、商店街の魅力を高めるさまざまな活動を支援することで、商店街の個性と活力を創出していきます。

イ 新産業・新技術の開発を促進するために

上田市には、大学や産学官連携支援施設などの知的創造拠点が整備されています。これらの高度研究機能を生かすとともに、地域間における同業・異業種間の交流を積極的に進め、分野を融合させた独創的な商品や技術の開発を促進していきます。

また、既存産業の中には成熟期や衰退期を迎え、新分野へ進出する企業や新たに創業する企業があります。このような企業にとって制約や障害となる事項を取り払い、産業が元気なまちづくりを目指します。

近年、情報通信技術の急速な進展などにより、求められる技術が高度化しています。これに必要となる高度な技術・技能を学習できる場を整備するほか、地域に伝わるさまざまな伝統工芸など「匠」の技術を次の世代へ引き継ぐための取組も進めていきます。

更に、地域で働く勤労者の福利厚生を支援するとともに、人材を確保するため、雇用対策に取り組んでいきます。

(3) 自然・文化

～水跳ね 緑かがやき 文化はぐくむ～

上田市は、菅平と美ヶ原の二つの高原、緑あふれる里山、その山々を源とする清らかな水にはぐくまれた地域です。また、岳たけののぼり幟、三頭獅子、戸沢のわら馬引き、御柱祭などの伝統行事や山本鼎らによる農民美術などの独自の文化が受け継がれているとともに、真田一族や蚕糸産業の隆盛など誇りある歴史があります。

今日まで豊かな恵みをもたらした自然や文化に感謝する心を持ち、地域全体で大切に守りながら、次の世代へ引き継いでいきます。

更に、信州国際音楽村などの文化施設を地域の文化・芸術活動の振興に向けて活用するとともに、より広範な市民が集える交流・文化拠点を整備することによって、それぞれの機能を生かしながら、新たな文化を創造していきます。

ア 自然との共生のために

上田市を囲む高原の山並み、市街地近郊の里山など、郷土の豊かな自然を守り育て、人と自然がともに調和する環境づくりを推進し、地域に伝わる文化遺産との一体的な保全も図りながら整備に努め、豊かな自然と直接触れ合う機会を増やしていきます。

また、地球温暖化の要因とされる二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減に貢献する、環境に負荷が少ない乗り物の利用や、気象特性を生かした環境保全型エネルギーの導入を促進していきます。

更に、住民一人ひとりによる自主的な自然を守る活動への参加を促進するために、学校などでの環境教育の実践や自然環境に直接触れる体験型学習の機会を提供しながら、人と自然の共生を大切に思う心を育てるとともに、環境保全活動を指導できる人材の育成や組織の形成を図っていきます。

イ 新たな文化を創造していくために

個性豊かで魅力的なまちづくりを進める上で、地域固有の文化の継承・振興は欠かすことができません。地域の価値を再確認し、更に充実した地域文化の振興を図ることで、地域への誇りも生まれてきます。

地域文化の啓発に向けて、地域を知る学習活動を展開し、伝統行事や文化に直接触れ、その大切さを認識することで、「わたしのまち」への愛着を深め、地域が元気なまちづくりを進めます。またそのために、各地域に伝わる郷土芸能や文化的遺産に関する情報を整理し、市内外に向けて積極的に発信します。

更に、歴史的・文化的遺産などの保護や情報提供の仕組みを充実し、全市一体となった保全活動に取り組むとともに、風土と結びついた特色ある文化を再認識し、市全体の協働精神のもと、新たな地域文化の創造に取り組んでいきます。

(4) 生活環境

～生活快適 住んでよかった～

上田市の中央には千曲川が流れており、その両岸を結ぶ道路を中心とした朝夕の交通渋滞が問題となっています。

また、電車やバスといった公共交通機関の利便性向上・利用促進により、市民の移動が安全・円滑に進むよう、交通体系に関する課題の解決に向けた総合的な交通対策を早急に進める必要があります。

更に、下水道の普及やごみの減量化、あるいは都市景観の形成といった住環境の向上を図るとともに、廃棄物処理事業や救急・防災業務についても関係市町村との協力体制をより強化しながら、豊かさが実感できる清潔で安全・安心な暮らしの実現を目指します。

ア 快適な生活環境を実現するために

廃棄物の削減に向けた資源循環型社会を構築するために、廃棄物の適正な処理体制を整備し、リデュース、リユース、リサイクルの3R^{*}を推進します。

また、多様なニーズに対応した公営住宅の整備や、良質な住環境を創出するための適切な指導・誘導を推進するとともに、きれいで安全な水を確保することが可能な上下水道整備を更に進めます。

個性豊かな景観をつくるため、伝統的な街並みに新たな要素を加えた「上田らしさ」を創出する魅力ある街並みの形成を目指すとともに、安全で良好な都市公園の整備と、緑の保全や緑化を推進します。更に、高度な防災・防犯体制等を、市民と行政が協働しながら整備していくことによって、安全で安心、そして快適なまちづくりを行っていきます。

イ 軽快な交通網を形成するために

新市内外の交流が円滑に進む交通体系を実現するためには、近隣市町村とも協力しながら、取り組む必要があります。上田市が属する上田地域広域連合で進められている「上田地域30分（サンマル）交通圏構想」の実現を目指し、渋滞緩和などに向けた広域道路網を整備します。

また、歩行者等を交通の危険から守るために、バリアフリー化に配慮しながら、歩道その他の安全施設を整備するとともに、各種道路の整備に当たっては、自然環境にも配慮した維持・改修に努めます。

公共交通機関を維持することは、子どもや高齢者などの移動制約者の移動手段を確保するためにも重要です。鉄道系ネットワークとバス系ネットワークを、市民の意見を反映しながら総合的・体系的に見直し、利便性を高めていくとともに、市民一人ひとりの利用促進を図る啓発活動にも取り組んでいきます。

※ 3R…循環型社会を実現するために必要な三つの要素のこと。リデュース（排出抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）を指す。

(5) 健康・福祉

～支え合い 健やかに ひとひと 女男いきいき～[※]

住民の健康増進に向けた取組が、これまで先進的に行われてきました。また、地域医療の確保を図るため、関係機関と連携し、体制の整備を進めてきたのをはじめ、自立した生活を支える福祉施設なども整備されてきました。

更に、地域・各種団体・行政など、みんな健康づくりや福祉を補完し、支え合う取組が展開されつつあります。これらの実績を生かし、少子高齢化が進む現在において、みんなが等しく健康で、生きがいを持ちながら、いきいきと健やかに暮らすことができる社会の形成を目指します。

また、性別・年齢・地域などを越えて、赤ちゃんからお年寄りまでみんなが実りある人生を送れるよう共に支え合う社会づくりを目指します。

^{ひとひと}
※女男いきいき…性別によって不当に差別されることなく、一人のひととして個性と能力が発揮できる社会を目指すという考え方を、キャッチフレーズの一部として盛り込むために、「女男」と書き「ひとひと」と表現している。

ア 生涯を通じた健康づくりを促進するために

健康寿命を向上させて豊かな人生を送るため、あらゆる年齢層に応じた病気予防体制を整えていくとともに、病気の早期発見・早期治療からリハビリテーションまで、早く病状を回復し日常生活へ復帰できるよう、保健・福祉・医療が連携した複合的なサービスを提供していきます。

また、市内に数多くある温泉を活用した健康づくりや、生涯にわたって身近で実践できる、より効果的な運動を推進し、人が健康で元気なまちづくりを進めます。

医療需要の増大に伴い、さまざまな医療サービスの提供が求められています。このために、市内の医療機関の役割分担を明確にしてネットワークを構築することで、それぞれが有する機能を発揮し、市民がいつでも安心して医療サービスを受けることができるよう関係機関に働きかけるとともに、地域医療の確保と救急医療体制を維持していきます。

イ “ひと”と“ひと”が支え合う社会をつくるために

少子化を食い止めるためにも、仕事と子育ての両立の負担感や子育ての負担感を緩和・除去し、安心して子育てができるような環境整備を進めます。

また、だれもが安心して生活することのできる地域社会づくりのため地域福祉を推進します。高齢者福祉においては、生きがいを持ち、住み慣れた地域で安全・安心に自立した生活を送ることができるよう地域での基盤・支援体制を整備し、各種生活支援サービスの充実や介護サービスの適正な円滑利用を促進します。障害者福祉においては、障害者が自立して生きがいを持ちながら、いきいきと健やかに暮らすことができる社会の形成を目指します。

更に、すべての人の人権が尊重され、平和な明るい社会を実現するため、人権教育の推進や啓発活動を積極的に展開するとともに、女性と男性が互いに人権を尊重し合い、能力を発揮できる機会を確保するため、男女共同参画を進めます。

国民健康保険や新たな高齢者医療制度及び国民年金といった社会保障は、“ひと”と“ひと”との支え合いに基づいている制度であり、その周知・啓発に努めるとともに、医療制度を将来にわたり持続可能なものとしていくための医療制度改革に対応していきます。

(6) 教育

～学び 育ち 人かがやく～

上田市では、信州大学繊維学部、長野大学、上田女子短期大学、長野県工科短期大学校といった大学を軸とした学術研究都市機能や、六つの高等学校をはじめとする学校教育施設のほか、市民が生涯にわたって学習することのできる施設が各地域に設置されるなど、初等教育から高等教育、社会人教育に至るさまざまな取組が展開されてきています。

まちづくりに関するすべての取組の基礎は“人”にあります。そのために、家庭・地域・学校が連携し、子どもたちの「生きる力」^{*}をはぐくんでいく必要があります。更に社会教育分野においては、大学などの高等教育機関とも連携しながら、さまざまな学習ニーズに応え、個人の能力を地域のために生かせる、新しいまちづくりを担う人間性豊かな人材を育成します。

※「生きる力」…1996年に国の中央教育審議会が、子どもたちに必要な資質、能力は、変化の激しいこれからの社会を「生きる力」であるとして提唱したことば。自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力をバランスよくはぐくむことが重要であるとされている。

ア まちの未来を担う子どもたちの育成のために

人が健康で元気なまちづくりを進める上で、未来を担う子どもたちの育成は大きな役割を担います。そこで学校教育においては、時代に対応した安全で安心な施設・設備の整備を進めながら、発達段階に応じた継続的・系統的な学習指導や生徒指導に努め、学びの環境の充実を図るとともに、自発的に学ぶ意欲をはぐくみます。また、学校として特色ある教育活動を展開し、生きる力の育成を基本にした「豊かな心やたくましさ」をはぐくむ教育を推進するほか、健全な「心」と「体」の育成のため、学校給食や健康教育の充実を図ります。

更に、地域を思う社会性のある人材を育成するため、家庭、地域、学校が連携しながら、青少年の健全育成を推進し、子どもたちが地域社会と触れ合う機会を作り、地域ぐるみで子どもたちを育てる環境を整え、生きる力をはぐくんでいきます。

イ 生涯学習と人材開発を促進するために

地域と生活に根ざした学習課題の解決に向け、学習情報・機会の提供や生涯学習ネットワークの整備をするとともに、社会教育施設の整備や高度化を推進し市民の学習活動を促進します。

また、個人の知識や能力、更に各種団体の活動をまちづくりに生かすため、人材活用のシステムづくりに取り組むとともに、各種学習活動などを通じてそれぞれ独自にまちづくり活動を行っているグループ・団体の連携を図ります。

更に、体力向上や健康づくりの機会を増やし、各種競技スポーツの強化に取り組むとともに、一年を通じて全国各地の各種スポーツ団体が合宿に訪れる地域特性を生かし、市内のスポーツクラブの水準向上にもつながる交流を深めていきます。

